

(別表3-3) 平成14年度から平成28年度における経年分析結果(水質)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB				-
[2]	HCB	-	-		⊥
[11]	HCH 類				
	[11-1] α-HCH	-	-	-	
	[11-2] β-HCH	-		-	
	[11-3] γ-HCH (別名: リンデン)				
	[11-4] δ-HCH	- *	-	-	- *
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類				
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	X	X	X	-
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	↘	↘	X	-
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	X	X	X	X
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	X	X	X	X
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	X	X	X	-
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	- *	- *	X	-
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル類	┘	- *	X	-
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	-	-	-	-
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	-	-		-

(注1) 経年分析は、単回帰分析等の統計学的手法を用いて実施した。(以下の表においても同様)。

(注2) 表中で用いた記号はそれぞれ次の内容を意味する(以下の表においても同様)。

- : 経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたもの
- ⊥ : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが示唆されたもの
- ┘ : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ高値であることが示唆されたもの
- : 経年的な増加・減少傾向及び調査期間前期と後期との差について確認されないもの
- ↘ : 調査期間における低濃度地点数の増加傾向が統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- X : 「不検出値(nd)が半数を超えて存在する年度がある」又は「測定地点数が少ない」ために本分析法により経年分析を行うことが妥当ではないと判断されたもの
- * : ブートストラップ法において調査期間前期と後期との差が確認されないもの

(注3) ポリプロモジフェニルエーテル類、ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA) は平成21年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を記載している。

(別表 3 - 4) 平成 14 年度から平成 28 年度における経年分析結果 (底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	底質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB			-	-
[2]	HCB	-	-	-	-
[11]	HCH 類				
	[11-1] α -HCH	-	-	-	-
	[11-2] β -HCH	-	-	-	-
	[11-3] γ -HCH (別名: リンデン)	-	-	-	-
	[11-4] δ -HCH	-	-	-	-
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類				
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	⊥	X	-	- *
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	-	X	-	-
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	⊥	X	-	-
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	- *	X	- *	-
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	⊥	X	-	-
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	-	⊥	-	-
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル類	-	-	-	-
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	-	-	-	-
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	-	-	-	-
[17]	ペンタクロロベンゼン	-	-	-	-

(注 1) は過去に観測された全ての濃度と比較して、大きく逸脱した濃度が一部地点で 1 ヶ年のみで観測されており、その濃度が評価全体に与える影響が大きいと懸念されたため、その濃度を除外して解析を実施した結果であることを意味する。

(注 2) ポリプロモジフェニルエーテル類、ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA) は平成 21 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは平成 22 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-5) 平成14年度から平成28年度における経年分析結果(生物及び大気)

物質調査番号	調査対象物質	生物		大気
		貝類	魚類	温暖期
[1]	総 PCB	-	-	
[2]	HCB	-	-	-
[7]	クロルデン類			
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	-	-	
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	-	-	-
	[7-3] オキシクロルデン	-	-	
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	-	-	-
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	-	-	
[8]	ヘプタクロル類			
	[8-1] ヘプタクロル	X	X	
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド	-	-	
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド	X	X	↘
[11]	HCH 類			
	[11-1] α -HCH		-	-
	[11-2] β -HCH	-	-	
	[11-3] γ -HCH(別名: リンデン)	-	⊥	
	[11-4] δ -HCH	X	⊥	-
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類			
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類		-	
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	-	-	X
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	X	-	X
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	X	X	X
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	X	X	X
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	X	X	X
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル類	X	X	X
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	X	-	-
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	X	X	-
[17]	ペンタクロロベンゼン	X	- *	-

(注1) 鳥類の平成25年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、平成24年度までの結果と継続性がないため統計的な分析の対象外とした。

(注2) 生物のうち、ポリブロモジフェニルエーテル類は平成20年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオ

クタンスルホン酸（PFOS）及びペルフルオロオクタン酸（PFOA）は平成 21 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは平成 22 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

（注 3）大気のうち、HCH 類及びポリプロモジフェニルエーテル類は平成 21 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）及びは平成 22 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは平成 19 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。